

既に3月には春爛漫だったここ東京は、4月に入ってから冬の装いに逆戻りせざるを得ない不安定な天気が続き、真冬の寒さで雪が舞った日もありました。なかなか仕舞えなかったウールのセーターをようやく洗濯し、順次片付ける日々をようやく迎えることが出来ました。

新時代のリーダー像

まもなく「令和」の時代に入ります。世間ではどんな時代が訪れるのかが話題になっていますが、時代が「どうなるか」ではなく自分が「どうあるか？」が重要と思います。今までを瓶の中で切磋琢磨していれば良かった時代とすると、これからは自分で瓶をつくり新しい価値を創出して行かねばならない時代と例えた人がいます。決められた枠組み、定められた約束事の中でうまくやるという方法論ではなく、それすらも自分でつくって運営して行かねばならない、ということでしょうか。それは新

しい世界にどう生きるかではなく、どんな世界をつくりたいのか、どんな世界に生きたいのかということであり、時代がどうなるかということではなく、自分がどういう時代にしたいのか、どんな自分でありたいのかということです。ところで、これまでの元号は国のあるべき姿を漢字2文字で表象することが求められてきました。「令和」には、国のあるべき姿というよりこれからの時代のリーダー像が現れているように感じます。令和の令は命令、律令、など何かしらの強制力を想起させますが、出典元の万葉集

に忠実になれば、誰かのというよりお天道様の意思、のようなもっと壮大な何かのようです。それを汲み取り伝える人。つまり、従来型の指示命令、率先垂範型のリーダー像とは違う想像力と表現力に溢れた明るいリーダー像です。明るい人、というとき、性格や人柄が明るいということではなく世の事情に明るい、つまり世間のことがよく見えている人のことを言います。先行き不透明な時代になればなるほど明るい人(リーダー)の元に人が集まります。明るい人が新しい世界、新しい時代を作っていきます。(太)

知らなきゃ損する身体の不思議

武術や武芸がなんのためにあるのかと考えることがよくあります。明治時代に体系付けられた武士道を範とする武道の目的は人間形成です。そこで、神田すずらん館の武術教室にはこんなテーマを設定しました。「変化への対応力(現代武術教室)」、「今を生きる力(忍術教室)」、「未来を切り拓く力(真剣斬法教室)」、「人生を楽しくする力(身体術教室)」。

武術稽古を通じてこれら4つの力を養成し、道場に関わる人々の生活の向上に寄与できればと願っています。中でも人気急上昇中なのが、参加者が「知らなきゃ人生損する」と口を揃える井上欣也先生の身体術教室。古武術に習う身体の使い方に始まり、相手に触れた際の皮膚感覚からの展開など、自分の身体の様々なところへ意識が向くことで今まで知らなかった新しい世界が拓けます。井上先生の教室は本拠地である本厚木を中心に展開中。別紙に稽古舎の案内を同封します。企業向けの研修や温浴施設向けのイベントなどご興味ありましたらお声掛けください。(太)

ようこそ太仁亭へ!

春が来て道端や畑のそこかしこにニョキニョキと生えて来るノビル。皆さん、ノビルをご存知でしょうか。長野で生まれ育った父の影響で、東京のニュータウン育ちの私にも幼い頃から親しみのある野草です。

先日、録画しておいた「猫のしっぽカエルの手」(Eテレ)を見ていたら、ノビルを使ったタルタルソースを作る様子が放送されました。これまでは、味噌とマヨネーズを合わせたソースに絡めてそのまま食べていたので、調理するという意識がなかったのですが、刻んで混ぜるだけの簡単なタルタルソースだったので早速作ってみました。茹でたプロッコリに和えて頂きましたが、ピリッとした辛みが刺激的でとても美味しく感動。温野菜の他にも豚しゃぶやフライ、唐揚げ等の揚げ物にもとても合いそうです。(仁)

☆ノビルタルタル☆

汚れた外皮を取り除いて根を切り落とし、球根から葉まで細かく刻んだノビルと、たっぷりのマヨネーズを和えて出来上がり!

今月のお豆ちゃん

和太鼓を楽しんでいる知人から演奏会のチケットを頂きました。お豆ちゃんは普段は昼寝をしている時間帯でしたが、行く行く〜と大はしゃぎなので、昼寝を早めて出掛けました。約一年前のピアノの演奏会は3分しかじっとしていただけでしたが、今回の太鼓は15分間会場内に滞在することが出来ました。休憩の為一旦退場し、再び会場へ戻って今度は舞台へ!大きな和太鼓を体験し、大満足の一日となりました。(仁)



桃源郷

畑に行く途中の丘陵地帯に、別の広い畑があります。多くの方に貸し出されているようで、いつも誰かが何らかの作業をしています。南には当社の事務所があるニュータウンの団地群、西には山々が眺められる大変壮観なその丘陵地帯に、桃と思しきピンクや白の花が咲く木々がありました。青い空に映えてとても美しく、ここが桃源郷かと見紛うほど。車のない暮らしのお陰で、我が畑へと続くこの桃源郷を見つけました。(仁)

編集者: 後藤紅仁子

kuniko-goto@ccore.co.jp

発行日: 2019.4.15 啓蟄(けいちつ)

桃始笑(ももはじめてさく)

発行所: 株式会社コンセプト・コア

☎192-0373

八王子市上柚木 2-63-10

TEL/FAX 042-697-7473

https://ccore.co.jp/

過去号: ウェブサイト1からご覧頂けます。